

2018年1月4日号

検索

20の技術が変える未来

予測01

職場の人手不足が解消

RPA

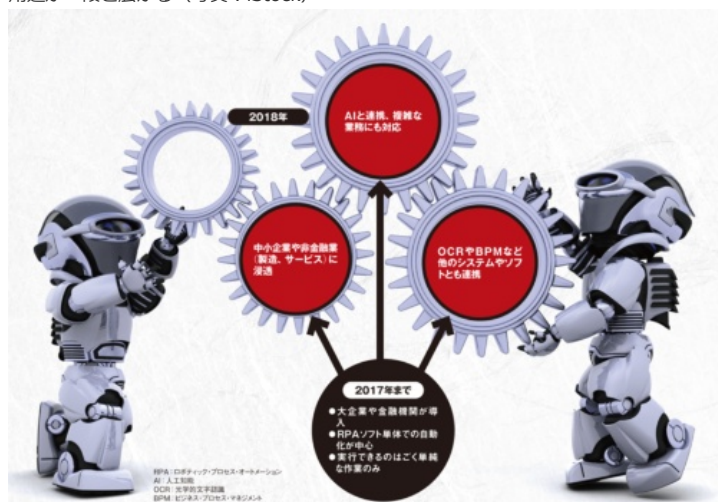
2018年は社会的な課題だった人手不足が、オフィスのホワイトカラーの分野で急速に解消に向かう。立役者は「RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）」。PCでデータを繰り返し入力したり転記したりする人手の雑務をソフトで自動化する技術だ。

導入支援サービスで先行するアビームコンサルティングが2017年1月から9月までに導入を支援した企業は約360社に上る。「このままのペースで導入が続けば2018年末には1000社を超える見通しだ」（安部慶喜戦略ビジネスユニット執行役員プリンシパル）。

民間予測も同社の見立てを裏付ける。調査会社のアイ・ティ・アール（ITR）は2018年度の国内RPA市場規模を2017年度の2.2倍となる44億円と見込む。市場予測を基にアビームコンサルティングの2017年1～9月の実績から年間の受注件数を推定すると、2018年通年では確かに同社1社でほぼ1000社を手掛ける計算になる。

図 2018年のRPA市場の広がり

用途が一段と広がる（写真：iStock）



[画像のクリックで拡大表示]

RPAの導入支援を手掛けるIT企業はざっと20社。アビームコンサルティングを除く各社の導入支援数を1社当たり200社と控え目に見積もっても国内全体では5000社を突破することが確実だ。

難しい処理も自動化が可能に

市場拡大の原動力はRPAのソフトロボを開発・運用するために必要な技術の進化にある。代表例が機械学習やチャットボットといった人工知能（AI）技術との連携だ。これにより、従来の単純作業に加えて例外処理や自然言語処理といった非定型業務も自動化しやすくなる。

コラム目次

予測02 毎週、管理職の送別会
AI

予測03 日本全土にセンサー網
LPWA

予測04 さらばマルウェア感染
次世代アンチウイルスソフト

予測05 所有や雇用の常識が瓦解
シェアリングエコノミー

予測06 トヨタのカイゼン限界突破
VR

予測07 航空・自動車も接続大開放
API管理

予測08 駅の転落事故が無くなる
エッジコンピューティング

バックナンバー



バックナンバー一覧

アクセスランキング

【20の技術が変える未来】
予測01 職場の人手不足が解消

【20の技術が変える未来】
予測07 航空・自動車も接続大開放

【ニュース&レポート】
銀行法、GDPR、民泊法、IoT減税… 知らないとピンチ、今年の法改正

【20の技術が変える未来】
予測09 3D地図でGoogleに一矢

【20の技術が変える未来】
予測20 「門前払い」が消える

【20の技術が変える未来】
予測10 中小企業、デジタル下剋上

【ニュース&レポート】
スパコン開発のPEZY社長逮捕 NEDO助成金を不正受給容疑

【インタビュー】
IT部員はボーナスいっぱい ブロックチェーン、適材適所で

【20の技術が変える未来】
予測04 さらばマルウェア感染

具体的にはOCR（光学的文字認識）で読み取った文字や電子メールの文章などをAI技術で認識し、データを登録したりワークフローを実行したりする一連の処理の精度を高められる。

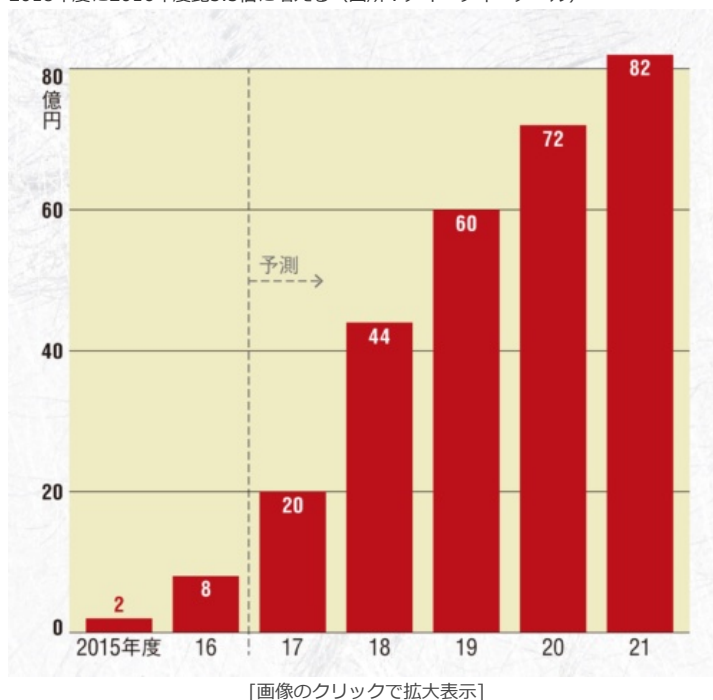
会員顧客の住所変更手続きを紙の申込書で受け付ける業務を例に取ると、手書きの申込書をスキャンして氏名や新旧の住所をテキストデータに変換。社内システムに取り込んで顧客データベースを更新し、変更手続きが終わったら顧客に電子メールで知らせる。こうした処理を丸ごと自動化できるようになる。機械学習に基づいて読み取った結果を学習させ、読み取り精度をより高められるようになる。

読み取る書類自体のフォーマットが定まっていないような複雑な業務についても、AIとの連携で自動化できる可能性が高まる。保険会社が医療機関ごとに異なる書式の健康診断書の内容を読み取り、内容に応じて保険料を割り引くサービスなどのケースだ。

中小・サービス業にも広がる

2018年はRPA導入企業の裾野がさらに広がりそうだ。業種については2017年までは生命保険や銀行といった金融機関が先行していたが、2018年は製造業やサービス業、小売りや商社など幅広い業種に広がる見通しだ。

図 RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の国内市場規模
2018年度に2016年度比5.5倍に増える（出所：アイ・ティ・アール）



企業規模についても、大手から中堅・中小へと導入企業が拡大する。アビームコンサルティングによれば、2017年1～6月に同社が導入を手掛けた企業210社のうち、年間売上高が500億円以上の企業は69%、100億～500億円未満の企業は7%だった。

これに対して7～9月に導入を手掛けた150社は100億～500億円未満の企業が19%と12ポイント増えた。「2018年の初めから4月ごろにかけて、中堅・中小企業の導入ペースがさらに加速するとみている」（安部執行役員）。

RPAが普及してホワイトカラーの業務効率が高まれば、オフィスの人手不足が解消する。2017年10月に前月比0.03ポイント高の1.55倍と、約44年ぶりの高水準をつけた有効求人倍率（国内全体）の上昇に歯止めをかける道筋が見えてくる。

関連書籍

SEよ大志を抱こう



SEのやりがいを改めて認識できるとともに、楽しく働きながら大成するための「気付き」が得られます。これからの時代を生きるSEに必要な心構えや物事の考え方を体系的に整理し、53のメッセージとしてまとめています。『日経コンピュータ』の人気連載を基にした、SE一筋40年の著者による待望の初書籍です。

（ A5判、276ページ、1,680円 ）

RPA活用で先行する金融では、三菱UFJフィナンシャル・グループやみずほフィナンシャルグループなど大手3社が合計3万2000人分あまりの業務を減らす計画をぶち上げた。業務効率化の柱となる技術がRPAである。

オフィスの人手が足りてくると、その影響を受けるのは定型的な事務作業を担う派遣社員などを抱える人材派遣や人材紹介の企業、あるいは業務受託のBPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）事業者だ。定型的なデータ処理作業にとどまらず、様々な帳票や書類のデータ入力までRPAが担うようになると、人間が担う仕事は減る。

人材派遣やBPOの事業者はRPAの存在を前提に、新サービスの開発や事業構造の改革を急ぐ。パソナはOCRとRPAを組み合わせる手書き書類の自動処理を支援する保険業界向けサービスを2017年10月に開始。ディップも人間とRPAのソフトロボを組み合わせたハイブリッドな人材紹介サービスの開発を進めている。

ツイート

0

目次

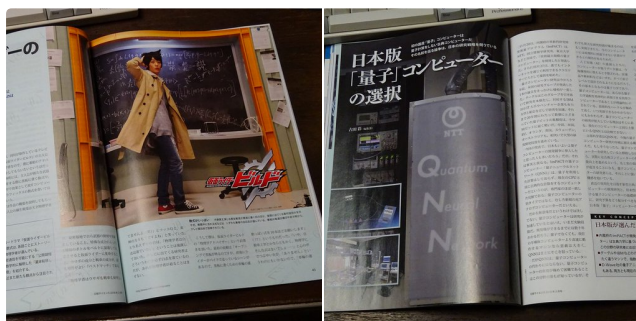
日経コンピュータに関するツイート

im22さんがリツイートしました



尻P(野尻抱介) @nojiri_h

最近の『日経サイエンス』は攻めた記事が多いよね。
「仮面ライダーの方程式」は監修者がエピソードにちなんだ数式の意味を解説していて、公開鍵暗号や蔵本転移など、おいしい題材を盛り込んでいる。ImPACTの自称量子コンピュータについての記事では当事者の言い分をしっかりと伝えつつ問題提起。



1時間

目をみるものさんがリツイートしました

埋め込む

Twitterで表示

日経コンピュータDigital :: 購読申し込み | お問い合わせ | 利用規約

| 日経BP書店 | 著作権・リンクについて | 個人情報保護方針/ネットにおける情報収集/個人情報の共同利用について | ID統合について |

日経BP社

Copyright © 1995-2018 Nikkei Business Publications, Inc. All rights reserved.

このページに掲載されている記事・写真・図表などの無断転載を禁じます。著作権は日経BP社、またはその情報提供者に帰属します。掲載している情報は、記事執筆時点のものです。